

8

宮古短期大学部における異文化理解促進の取組み

岩手県立大学宮古短期大学部 准教授 三村敬之、講師 大前義幸

該当する
原則

原則 6 : 人々の国際市民としての意識を高める

原則 10 : 異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

岩手県立大学宮古短期大学部では、異文化理解・異文化交流に関するイベントや、外国人観光客へのボランティア活動などを通じて、学生の国際理解がより一層深まることを期待して、国際交流に関する講演会や、英会話の機会としてEnglish Timeを開催している。

1. 国際交流に関する講演会

2021年12月、宮古市の国際交流担当者を本学にお招きし、「宮古市在住外国人への取り組みの現状」と題してご講話をいただいた。

講話では、宮古市国際交流協会が開催している日本語教室、英会話教室、日本の伝統文化を学ぶイベントなどについて写真を交えながら紹介があり、学生は宮古市国際交流協会が宮古市に住む外国人のためにどのような取り組みを行っているかを学んだ。

講演の後は、「一人ひとりの国際理解」と題し、外国での生活理解に関するグループワークを行った。参加した学生同士でグループを作り、国際理解への関心度を問うクイズを通して、国際問題について学んだ。

参加者からは、「国際問題や異文化についてもっと深く学びたい」という意見や、「国際理解が難しく、クイズに正解しなかった」という意見が挙げられた。



国際交流に関する講演会

2. English Time

English Timeは、7月と12月の2期行った。

(1) 7月開催時

7月期は、学年毎に2回開催した。

1年生対象の回では、English Timeに初めて参加した学生も多く、少し緊張しながら英会話が始まったが、時間が経つにつれて徐々に積極的に英語で話すようになった。同じ国でも使われている言語が多数あることなどを学び、異文化理解を深めた。学生は簡単な英語でも会話ができることを知り、楽しい時間を過ごせたようだった。2年生対象の回では、英語を話すことができる参加者も多く、海外の文化や国の歴史、音楽の歴史などについて、英語で会話をした。

(2) 12月開催時

12月期は、学年を混成して2回開催した。

「After コロナ」と題して、コロナ前の生活とコロナ後の生活の映像を視聴した後、コロナ後に不便になったことや便利になったこと、出来なくなったことや出来ること、コロナが収束したら何をしたいかなどについて英語で会話した。参加者は、初めのうちは英語で話すことに戸惑いや緊張があったようだが、最後には英語で話すことに抵抗がなくなって自発的に話すようになり、楽しい時間を過ごしたようだった。



English Timeの様子